

校長室だより  
NO. 55  
平成31年3月18日

# すべては光る

梅園小学校長  
たか すりょうへい  
高 須 亮 平

## 平成30年度の教育診断評価の結果

平成30年度の1年間の教育診断評価の1つとして、2月19日(火)～26日(火)に児童・保護者を対象に全数でアンケート調査をしました。皆様のご協力に感謝します。調査結果を表したグラフは裏面に記載してあります。

調査の項目内容は、昨年度行ったものと同じですので、昨年度の結果と比較しながら教育活動について振り返ることにします。学級・学年差はありますが、今年度の子どもたちの意識、実態を全般的に平均化して把握するとともに、来年度の教育活動を考える資料とします。

なお、昨年度の調査と比較して、データの変動を示しているものについて、子ども、保護者それぞれの項目で比較して考えられる要因を記すことにします。今年度は、大きな変動を示している項目はなく、5ポイント程度のゆるやかな傾向のある項目となっていました。「A」は選択肢の「よくあてはまる」、「B」は「どちらかというにあてはまる」を表します。特に「A」について注目してみました。また数値は「○」はプラス傾向を、「△」はマイナス傾向、「p」はポイントを表します。

### 子どもの調査結果

※ 昨年度の調査結果と比較して「ゆるやかな傾向」にある項目（5p程度の差）

- |                            |                        |
|----------------------------|------------------------|
| ○ くつやスリッパの整頓ができる           | Aの数値の増加                |
| ○ あいさつや返事がしっかりできる          | Aの数値の増加                |
| ○ 英語の活動は楽しい                | Aの数値の増加                |
| ○ 学校は心や体の健康をよく考えている        | Aの数値の増加                |
| ○ 道徳の時間等で命の大切さを学ぶことができる    | Aの数値の増加                |
| △ 授業では進んで自分の意見や感想などを発表している | Aの数値の減少<br>(A+Bの数値は同じ) |
| △ 学芸会や運動会等の行事に進んで取り組んだ     | Aの数値の減少<br>(A+Bの数値は微減) |

### 保護者の調査結果

※ 昨年度の調査結果と比較して「ゆるやかな傾向」にある項目（5p程度の差）

- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| ○ 学校は環境・国際理解・福祉等を指導している | Aの数値の増加                |
| △ 子どもはあいさつや返事がよくできる     | Aの数値の減少<br>(A+Bの数値は微減) |
| △ 学校は災害時の対応を分かりやすく伝えている | Aの数値の減少                |

- |                           |                        |
|---------------------------|------------------------|
| △ 先生に子どものことについて気軽に相談できる   | Aの数値の減少<br>(A+Bの数値は同じ) |
| △ 先生は子どもの間違っただ行動等を指導してくれる | Aの数値の減少<br>(A+Bの数値は同じ) |
| △ 学校とあなたの家庭との関係はうまくいっている  | Aの数値の減少<br>(A+Bの数値は微減) |

この調査結果は、全校を平均化したものということから、昨年度と比べて大きな変動はなく、ゆるやかな変動ですが、選択肢A「よくあてはまる」の数値について傾向を探りました。なお、項目により学年・学級により差が見られ、全体として一概には言えない点もあります。



こども音楽コンクール表彰式での演奏

まず、子どもの結果です。「英語や道徳の授業」についてプラス傾向にあります。これは、2020年度に学習指導要領が改訂されることから、前倒しで行われているものです。英語は高学年で、道徳は全学年で教科化されます。その内容を子どもたちが前向きに取り組んでいることを表しているようです。また、「あいさつ・返事」「靴・スリッパの整頓」という生活習慣に関するものの意識も上がってきていることはよいことです。逆に、「進んで自分の意見を発表する」「行事に進んで取り組んだ」の「A」の数値の減少について考えられることは、各学級の授業では子ども主体の授業を目指しているものの、実際には子どもはそう感じていないことを表しているのではないかと考えています。これは、次年度の取り組みを検討する必要があります、課題と言えます。

次に、保護者の結果です。「環境・福祉・国際交流の指導」についてプラス傾向となっています。これは、総合的な学習でそれぞれの学年で取り組んでいる成果と考えられます。しかし、課題があります。それは先生と家庭との関係です。「先生に気軽に相談できる」「先生は子どもの間違っただ行動を指導してくれる」「学校と家庭との関係はうまくいっている」の「A」の数値が年々、ゆるやかですが減少していることです。これは、学年・学級差がありますが、今一度、保護者の皆さんと担任教師とのコミュニケーションの取り方等について改善を図る対応をしていきたいと感じています。これは、来年度の大きな課題としたいと考えています。

これらの結果は、来年度の教育活動を考える上で参考資料としていきます。なお、学校の教育活動をよりよくするご意見等があれば是非ともお寄せください。子どもの教育について必要なものであれば積極的に取り入れていきたいと考えています。今年度はまだ残っていますが、皆様の本校の教育活動へのご理解とご協力に感謝しています。



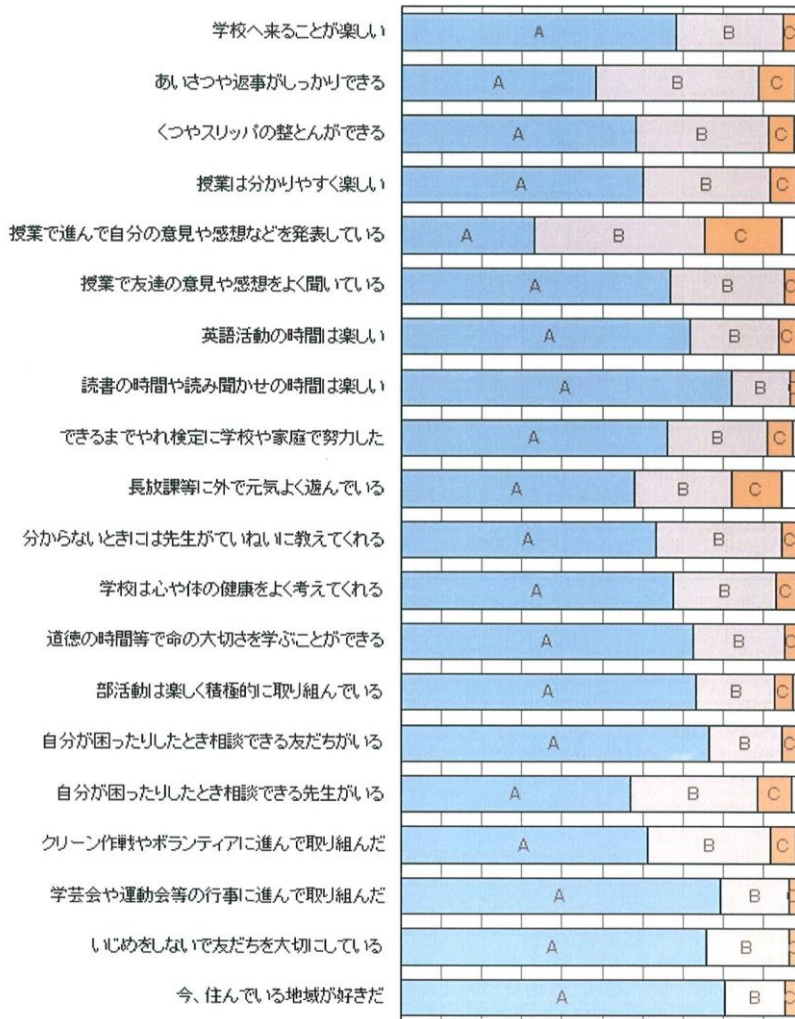
本年度最後の音楽集会 1年2組と6年2組とのペア学級での発表

平成 30 年度 3 学期教育診断評価の結果

A : よくあてはまる                      B : どちらかというとあてはまる  
 C : どちらかというとあてはまらない    D : あてはまらない  
 ※ Dは少数のためグラフ中の文字表記は省略してあります。

【児童の調査結果】                      (全児童 810 名)                      ※部活動への参加は 4～6 年

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



【保護者の調査結果】

全保護者 603 名

※「環境・国際理解・福祉等を指導している」は4～6年

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

